

琉球大学学術リポジトリ

アメリカに於ける農民の服装

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-05-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 石垣, 信子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/19737

N、株 出

収穫後株をろえをなし、根際の上をかき分け、春植と同量の基肥及第一回の追肥を同時に株の両側に中耕をかねて施し、その後は春植と同じような管理をする。

むすび

戦後琉球砂糖の日本市場における需要は実に大きい。然しながらそれに順応するような生産は未だあがつていない。特に琉

アメリカに於ける農民の服装

私共はよく道を歩きながら、乗物の中で、或は映画館とか食堂など人の集る所で自分の周囲に居る人達の職業とか環境を想像することをします。

普通、人間の顔付、言葉遣い、動作、服装などは、そうした「身分とか素性」を他人に知らしめるのに影響がありますが、殊に身につけている衣服を通して、全然見えず知らずの人の職業の種類とか、又は住む場所（都会人であるか、地方人であるか）を大体知り得る場合がよくあります。

アメリカで生活して、最も強く感じたことの一つは、一般に農手と都市の相違が人々の服装の上に判つきりと表はれていないといふことでした。

つまり特別な大都会とか、特に汚鄙な田舎は別にして、都市に住む人も農村の人も大体同じ様な衣服生活をしているといふことです。之は婦人の服装、特に主婦の服装に多く見られました。

こうした現象は、主に既製服の普及によるものと思はれます。アメリカでは余程の金持でない限り、服を仕立てさせるといふことはありません。その代り、既製品が、下着からオーバーコートに至るまで、いろいろな種類のスタイルや色合のものが

球は甘蔗作面積に制約をうけるのでいきおい反収の増加をはからねばならない。ところが未だ大方の農家はたゞ甘蔗を植えて置きさえすれば良いという考えで栽培管理の面には殆んど関心がないのではなからうか、その証拠には戦前の反収取量に比較して戦後は相当おちているといわれている。

我々はぜひ反収をあげて生産費を少くし、安くて立派な砂糖を日本の同胞に送らねばならない。（比 嘉 信 吉）

各サイズ毎に大量に売りに出されて居りますので、此の既製品に類つた生活が服装の上での都市と農村の区別を少なくする地ならし作用をして居ります。

又交通機関の発達、それから現在日本で盛んに云われているマス、文化交流の発達で、流行の動きとか、服装の傾向などが各地にすぐ通じますので、都市に住む人も農村に住む人も大体同じ様な波に乗つた服装生活することが出来ると云えます。

そういう風に、一般人の服装は、都市にしろ農村にしろ、冬物でも夏物でも、著しい相違は余りないのですが、その代り日常生活の中で種々な活動に応じた服装の区分が細くなつています。例えば、働く時には働き着、くつろぎ用にはくつろぎ着、簡単なよそゆき着とか正式なよそゆき着、スポーツ服、ダンス服といった具合に、活動に応じて、服装そのものも変ります。

そして職業とか住む土地の氣候等に依つて重点の置き方が變つて来ます。つまり事務所に勤める人は労働者よりもワイシャツとか、スワツの数が多しとか、或は寒い土地に住む人は冬のコートを夏のスワツよりも多く持つて居るといつた具合です。農村では、何と云つても農業や牧畜が生活の主体となつて居

りますので、そうした作業にふさわしい働き着或は作業衣といつたものの重要性が大きくなります。

特に男性の衣服は婦人のそれよりも働き着に重点が置かれて私共の多くがやるように、古くなつた服を作業衣に廻すのではなくて、トラクターの運転や、その他の農業機械の操作とか、又は農業作業に耐え得る丈夫な、しかも着心地のよいものを買い求めて居ります。

一日の仕事が終りますと、入浴したりシャワーをとつたりして普断着に着替へてさつぱりすることは勿論です。

農村に限つたことではありませんが、寝巻に着替へるのは大抵夕食がすみ、一家だんらんも終つてから夫々の部屋にひきとるときです。

朝でも時間の都合のつく限り、寝巻のまゝで朝食を執るといふことはありませんし、又そういう場合には何か上から羽織つています。

農村の男性は一般に簡単な、スポーティな服装を好みます。仕事の性質がそうさせるのでせう。ちやんとした集会とか、教会へは勿論ネクタイをしめ、背広を着て出掛けますが、休日などに家族を連れて映画に行くとか、遊びに行く時には気軽なシャツにスボンだけの格好とか、或はシャツにネクタイをしめて上着なしといった格好がよく見られます。寒い時には、自然その上にコートとかジャケット等がつく訳です。

婦人の場合には、どちらかといふと、農業そのものよりも家庭内における活動が彼女等の生活の主体になつて居りますので従つて衣服も家庭着が中心となつて居る様です。

彼女等は都市に住む婦人達よりも、一般に家庭着を多く持つて居ります。と云いますのは農村婦人は都市婦人に比べて、家事にのみ従事している時間が多からずです。

洗濯のよく効く材料で作られたブラウスとスカートの組合せ又はワンピースが彼女等の家庭着の多くを占めて居り、冬の寒い時でも屋内の暖房が充分ですので、余り厚着をして居りませぬ。そういった服装で食事を作り、家の中を掃除し、洗濯をするという訳です。

婦人が男の人達にまじって重労働をするといふことは殆んど見られません。鶏の卵を集めたり、家畜に餌をやったり、或は牛乳をこぼしたりする、軽い労働は彼女達の分担となっている様です。

そうした作業をする時には、働き易い格好、つまり家庭着以外の服装をします。何と云つても一番重宝がられるのはシャツにスポンの組合せでせう。

農村婦人の重要な仕事のひとつとして家族の食料貯蔵があります。これは、自家でとれる果物や野菜、或は安く買える時季もの、果物などを瓶づめに作つたり、漬物に作つたりしておいたり、或は又肉のうんと安い時に大量に買ってそれを冷凍にしたりするのです。

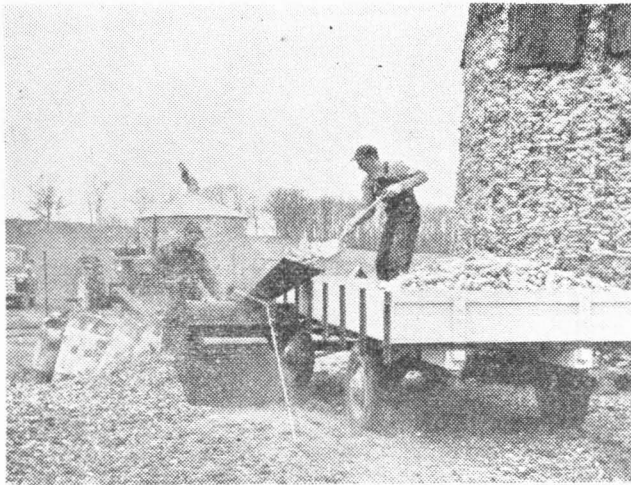
農家といふものは日々に定額収入のある、いわゆる月給取りの家庭と異なり、金銭の収入状態が種々の条件に依つて一定ではありませんので、こうした食料貯蔵も必要となつて来る訳です。

彼女達はこの食料貯蔵をする時には、前にのべました様な働き着で活動するのですが、何といつても食物を扱うのですから屋外での働き着よりもより清潔なものをと氣をつけておりません。

一般に外出する時の彼女達の服装は男の人に比べて、外出の目的に沿つたものをと氣をつけている様です。例えば、食料品を買いに出かける時には簡単なワンピースとかストラックス、デパートに買物に行く時にはストッキングを必ずはくとか、或は又正式な集合へは帽子をかぶるとか、その場所、活動にふさわしい服装の区分を細くして居ります。

農村の婦人はよく裁縫をします。殊に簡単に縫える自分の家庭着とか、娘の服などを自分の手で縫つて間に合せている人も多い様です。

自分で縫ふと云いまして、私共がやつている様に型紙を作る必要がなく、お店に売つていろいろなスタイルの型紙の中から、適当なサイズを求めて来てやるのですから余り手間が掛らないことは事実です。



(写真説明)

左、収穫してきたトウモロコシを脱穀する農夫たち

下、自分の畠で出来た農産物を加工して貯蔵棚に詰める一主婦



私が一番おどろかされたのは、アメリカでは一般家庭の人々は、洋服がボロボロになるまで、着ないといふことです。農村では都市に比べてよく物を節約しますが、それでも、古くなつた服を更生するとか、子供の物に作り直すとかといふことは殆ど見られません。

古くなつた服とか、要らなくなつた服は、若し家族とか知り合いの中で着られる人にゆづるとか、教会に寄附するとかして居ります。

これはアメリカで出来ることであつて私共の生活では真似も出来ませんし、又真似すべきこともないと思ひます。

今こちらでも生活の簡素化、能率化といったことが強く叫ばれて居りますけれども、そういった傾向はアメリカでも聞きまされた。

農村の生活といふものは回ふでも肩のこらない生活が多いのですが、それが服装の上にも反映して気楽な服装が歓迎され、都会でもその影響で服装簡易化といった傾向がよく見られます。

活動に応じた、しかも簡易な服装は私共の生活にもつと採り入れられてもよいことだと思ひます。(石垣信子)